

平成28年6月26日
今週のベストショット



青松園A 新町パイレーツ 対 レッドサンデーズ戦
チェンジアップを駆使してレッド打線を2安打1失点に抑えたパイレーツ吉田投手。

写真：雁ノ巣ライナーズ 明瀬 旭

奈多グラウンド 奈多サンデーズ抜かりなし。

新町ウインズ (2勝2敗) 1 0 0 0 0 0 1 岩田●-今林

奈多サンデーズ (2勝1敗) 4 1 0 0 1 X 6 砂場○-大川

3BH: 野田 (奈多サ) 2BH: 木下 (奈多サ) 盗塁: 安藤 (一) (新町ウ)

一回表、ウインズは先頭安藤(一)選手が四球で出塁すると、続く岩田選手は死球、一死後四番桐島選手も四球で満塁とする。後続のバッターは三振で二死となるも立ち上がり制球が定まらない砂場投手から六番の松岡選手が四球を選び押し出し。ノーヒットで先制する。対する奈多サンデーズは一回裏、一死後宮口選手が四球、三番江口選手がレフト前安打で出塁すると、五番野田選手が左中間を破る三塁打で二者生還し逆転。さらに砂場選手の適時打と木下選手の二塁打で2点を加え4-1とする。サンデーズは二回裏、宮口選手の四球から相手のエラーにより1点追加、試合の主導権を握る。その後、サンデーズ砂場選手の投球も後半は速球も冴え、ランナーは出すものの要所を押さえ、五回裏には田中選手の適時打でダメ押し。そのままサンデーズが逃げ切り、危ない勝利を飾った。(記事・写真: ソルトベイスターズ 田中裕次郎)



見事なピッチング、サンデーズ砂場投手。



力投するウインズ先発の岩田投手。



一回表、押出で先制ホームを踏むウインズ安藤（一）選手。



一回裏、チャンスを広げる安打を放つサンデーズ江口選手。



一回裏、早くも逆転の三塁打を放つサンデーズ野田選手。



逆転の三塁打でベンチに応えるサンデーズ野田選手。



二年ぶり？の適時二塁打を放つサンデーズ木下選手。



この日2個目のバント安打を決める安藤（一）選手。



二回表、バント処理をするサンデーズ砂場投手。



二回裏、フライを処理するウインズ野中一塁手。



二回裏、フライを処理するウインズ今林捕手。



五回表、体を張って盗塁を阻止するサンデーズ宮口遊撃手。



六回表、フライを難なく捌くサンデーズ大川捕手。



六回表難しいライナーを捌くサンデーズ野田左翼手。

雁レクD 接戦を制したのはフェニックス！

三苫ホーネッツ (3勝1敗)	000000	0	矢野●-広木
奈多フェニックス (3勝1分)	100010X	2	松本○-実延(新)

2BH: 実延(新) (奈多フ) 盗塁: 三浦 (奈多フ)

現在、3勝のホーネッツと2勝で続くフェニックスとの試合となった。先発はフェニックス松本投手、ホーネッツ矢野投手。一回表、フェニックス松本投手はホーネッツを0点に抑える。その裏フェニックスは二死より三番沖選手が四球で出塁し、四番実延(新)選手がショートとセンターの間に打球が落ちるタイムリーヒットを放ち1点を先制。三回表、ホーネッツはチャンスが到来する。先頭打者九番永島選手が二遊間に内野安打を放つと一番稲葉選手が絶妙なセーフティバンドを決める。そして二番前園選手が送りバンドで一死二三塁とし逆転のチャンスとする。しかしフェニックス松本投手がここで踏ん張る。三番矢野選手をセンターフライ、四番広木選手を

インコースの速球で三振に打ち取りホーネットスは得点することが出来なかった。その後も両投手が踏ん張り0点が続き、ホーネットスにとっては初回のフェニックスの1点が重くなっていた。五回裏、フェニックスは七番実延(彰)選手が内野エラーで出塁すると二死になって九番松本選手がセンター前に抜けるヒットを放ち二死一三塁とする。そしてWPで二死二三塁となった後、一番西藤選手が三遊間に鋭い打球を放つ。ショートはよく追いついたがこれをこぼし、フェニックスに待望の1点が入る。そして六回裏、フェニックスの攻撃中、時間切れで試合終了となった。2点は取られたが3安打に抑えたホーネットス矢野投手もすばらしかったが、ホーネットス打線を0点に抑えたフェニックス松本投手は見事だった。(記事：三友クラブ駄原孝一郎、写真：大坪和則、八尋豊)



フェニックス先発の松本投手。



ホーネットス先発の矢野投手。



一回裏、先制タイムリーを放つフェニックス実延(新)選手。



先制のホームインをするフェニックス沖選手。



三回表、反撃となるヒットを放つホーネットス永島選手。



絶妙なセーフティバンドを決めるホーネットス稲葉選手。



三回表、確実に犠打を決めるホーネッツ前園選手。



矢野選手のフライを好捕するフェニックスセンター高原選手。



四回表、ライト線のフライを好捕するフェニックス能丸選手。



三回裏、深い三遊間のゴロを好捕送球する稲葉選手。



鋭いヒットを放つフェニックス今林英二選手。



試合後の両指揮官。

青松園B ジャガーズ打線大爆発 圧倒的勝利！

塩浜ジャガーズ（3勝1敗）0 4 1 5 0 4 1 4 荒木○一橋羽

三苦三球会 （1勝4敗）0 1 0 0 1 0 2 吉留●、原口、堺（達）一蓼原

3BH：内田、荒木、野中（塩浜ジ）渡辺（三球会） 2BH：紺野（塩浜ジ）大津（三球会）

盗塁：紺野（塩浜ジ）

初回は両投手危なげない立ち上がりを見せる。二回表ジャガーズの攻撃は、エラーとヒットで一三塁と先制のチャンスを作るとスクイズで相手のエラーを誘い先制。そこから紺野選手の二塁打も含めこの回一挙4点を挙げる。その裏三球会は、先頭の渡辺選手の三塁打でチャンスを作り蓼原選手のレフトフライでタッチアップをはか

るも紺野選手の好返球で得点を許さず、このまま無得点で終わりかと思われたが、連打と四球で満塁のチャンス。ここで塚（太）選手が押し出しとなる四球を選び1点を返す三球会。しかし後が続かず1点止まり。その後はジャガーズが攻撃の手を緩めず三回に1点、四回に5点、六回に4点と大量14得点を挙げ快勝。三球会は荒木投手とジャガーズ打線に圧倒された形となり、見せ場を作ることができず敗戦となった。

(記事・写真 奈多クラブ 吉田貴史)



三球会先発の吉留投手。



ジャガーズ先発の荒木投手。



バントで三球会を揺さぶるジャガーズ。



バントで揺さぶられる三球会。



二番手でマウンドに上がる三球会原口投手。



三番手の塚達也投手もジャガーズの勢いを止められない。



本塁を狙うも挟まれる。



タッチアウト！

青松園A エース吉田投手の好投でパイレーツ今季初勝利！

新町パイレーツ (1勝3敗) 2 3 0 0 0 0 1 6 吉田○-桐島

レッドサンデーズ (1勝4敗) 1 0 0 0 0 0 0 1 塚本●-荒口

2BH: 弥栄、足立 (新町パ) 八島 (レッド) 盗塁: 弥栄、足立、桐島 (新町パ)

新町パイレーツは初回、先頭の一番弥栄選手が中前安打で出塁すると、すかさず盗塁。早くも好機を演出する。その後一死二三塁とし、四番足立選手が右前安打を放ちパイレーツが先制。続く五番白岩選手の犠飛で1点を追加し、初回で2点を先取する。パイレーツは続く二回表にも連打や相手の失策により3点を追加する。一方、レッドサンデーズは一回裏二番八島選手が左前安打を放つと相手の隙を突いて二塁を陥れ、二塁打とする。バッテリーミスがあり一死三塁とすると、三番神田選手の三塁ゴロの間に三塁走者の八島選手が素早い走塁を見せ、生還し1点を返す。パイレーツはレッド先発の塚本投手の粘り強い投球と八島二塁手の3つのWプレーなど好守備もあり、追加点が取れそうで取れない。反撃をしたいレッドサンデーズであったが、パイレーツ先発吉田投手の投球の前に二回以降は三塁すら踏めない状態。安打も二回以降は出ておらず、最終回となる七回裏に五番塚本選手が左前安打を放つもこれがチーム全体の2本目。この日の元気のなかったレッド打線では反撃はかなわず、パイレーツが今季初勝利を手にした。敗れたレッドサンデーズは序盤の失点が痛かった。

(記事・写真 雁ノ巣ライナーズ 明瀬旭)



被安打2、1失点の好投、パイレーツ先発吉田投手。



レッドサンデーズ先発の塚本投手。



一回表、犠飛を放つパイレーツ五番白岩選手。



2点目のホームイン。パイレーツ桐島選手。



一回裏、二塁打を放つレッドサンデーズ二番八島選手。



二回表、二塁打を放つパイレーツ四番足立選手。



レッド神田選手の鋭い当たりも佐々木三塁手に好捕される。



最終回二死からチーム2本目のヒットを放つ塚本選手。



最後の打者となる六番前田選手を打ち取るパイレーツ吉田投手。

第7週編集後記

WSLの皆さんこんにちは！

第7週、6月26日は4試合が行われました。

奈多グラウンドの奈多サンデーズ対新町ウインズ戦は、エースで四番の藤田投手不在のウインズ先発の岩田投手だったが、初回二死からサンデーズ野田選手に逆転の三塁打を打たれると八番木下選手にもタイムリーを打た

れ、4失点。この失点が最後まで尾を引き計6失点。一方サンデーズ砂場投手は、四死球で三度先頭ランナーを背負うも打たれたヒットはランナー無しの場面と傷口が広がらなかった。7四死球、7奪三振とウインズも的を絞り切れなかったか？木下選手は3打数3安打と従来のバッティングに戻る気配が・・・。

雁レクDの三苦ホーネッツ対奈多フェニックス戦は、勢いに乗るホーネッツを相手にフェニックスがどう戦うかだったが、初回四球の沖選手が続く四番の実延（新）選手の当たりで長駆ホームを駆け抜けた1点がホーネッツに重くのしかかる。ホーネッツはフェニックス松本投手の目にランナーは出すものの決定打に欠き無得点。五回裏にも1点を加えたフェニックスが2-0で完封勝利。殊勲の若武者松本投手ピッチングは称賛に値する。

青松園Bの塩浜ジャガーズ対三苦三球会戦は、二回に4点を先制したジャガーズの独壇場。三球会の繰り出す三投手から16安打14得点と大爆発。投げてはジャガーズ荒木投手が8安打されるも大量点に守られ14-2でジャガーズの勝利。これでジャガーズは3勝目と好調を維持。今年の台風の目となるか？

青松園Aの新町パイレーツ対レッドサンデーズ戦は、帰ってきたパイレーツ吉田投手のナイスピッチングと福工大出身の一番弥栄（みえ）選手の快足・巧打と四番足達選手の大技小技の使い分けが目立った。九番本堂選手も2安打といい働きを見せ、全体に繋がりをもったいい打線に仕上がり、今季初勝利で波に乗りそうな予感。レッド打線はパイレーツ吉田投手の微妙な変化とチェンジアップに対応できず、初回と最終回の1安打ずつと完全に抑え込まれた。抜ければ右中間のライナーをレッド八島二塁手に二度Wプレーに取られたパイレーツ三番桐島選手は悔しそうだった。

梅雨本番で太陽が恋しい季節となりましたが、バットまで湿りがちにならないように、しっかり振り込んで試合に臨んでください。